

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 1142 号	氏 名	李 穎 輝
論文審査担当者	主 査 佐々木 克典 副 査 本郷 一博 ・ 杠 俊介		
(論文審査の結果の要旨)			
<p>歯の欠損を補う方法として歯科インプラント治療が行われている。歯科インプラント治療成功の目安として、生着率、残存率（5 および 10 年間使用できるか）、辺縁歯槽骨吸収の有無および量（インプラント周囲炎）が評価されている。インプラント治療の成功（上記の評価項目）を左右する要因はいくつかあり、その中でもインプラントの素材、全体の形状、表面処理方法、表面のテクスチャーなどに関する研究が行われているが、インプラント頸部の形状に関する研究は少ない。インプラント頸部はインプラントの生着や辺縁歯槽骨の吸収に重要な部位である。そこで李らは、3種類の異なる頸部の形状（スレッドのないもの、マクロスレッドをもつもの、マイクロスレッドをもつもの）をもったインプラントを試作し、ウサギ大腿骨および脛骨への埋入実験を行い、頸部形状の違いがインプラント埋入後の骨形成に与える影響に関して、形態学的、組織学的、細胞組織学的に検討し以下の結果を得た。</p> <p>1, X線 CT スキャン画像による形態学的検討</p> <p>マイクロスレッドは他の形状（スレッド無し、マクロスレッド）に比べて、インプラント表面に付着する骨梁の数は有意に多く、幅も有意に広がった。この所見はインプラント埋入早期（3 週間後）から観察された。</p> <p>2, 組織学的検討</p> <p>マイクロスレッドは他の形状（スレッド無し、マクロスレッド）に比べて、インプラント表面に付着する骨面積、および、新生骨の形成量ともに有意に多かった。この所見はインプラント埋入早期（3 週間後）から観察された。</p> <p>3, 細胞組織学的検討</p> <p>マイクロスレッドは他の形状（スレッド無し、マクロスレッド）に比べて、インプラント周囲におけるオステオポンチンおよびオステオカルシン陽性の細胞が多く認められた。</p> <p>以上の結果から、インプラント頸部にマイクロスレッドの形状を付与することにより、早期の骨形成と広い骨接触面積をもたらす可能性が示唆された。</p> <p>以上より、本研究は有用な情報をもたらす研究であり、主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。</p>			